

ふるさと 宮ノ陣 みや じん ～ 宮ノ陣のおかしむかし ～

宮ノ陣 小学校学校通信（平成31年4月～令和2年3月）に連載した15回の地域の昔についてまとめました。

身近な地域にこんな歴史があるんだと感じていただければ幸いです。

連載① ふるさと 宮ノ陣 みや じん

歴史と自然に恵まれた街、宮ノ陣。このふるさとを愛する子どもを育てるのが、本校の教育目標の一つです。しかし、ふるさとのことを知らなければ、愛する気持ちはわいてこないでしょう。宮ノ陣の「ひと、もの、こと」を少しでも伝えることができればと考えます。その第1回目です。

【宮ノ陣という地名はどうしてついたの？】

今から、600年ほど前、南北朝時代、後醍醐天皇の皇子で、大將軍として九州の軍を組織するため派遣された懐良親王が、1359年の大原合戦の時に、この地に陣地（敵と戦うために軍隊を置いた場所）を置いたことに由来します。近くには史跡も多く残っており、その一つに懐良親王が植えたと伝えられる「將軍梅」が宮ノ陣神社の境内にあります。

「宮ノ陣」というのは、大変長い歴史がある名前なんです。歴史は私たちの身近にあります。



將軍梅由来の碑

れんさい
連載②

あるさと 宮ノ陣

【大杜という地名はどうしてついたの？】

宮ノ陣小の住所は、「宮ノ陣町大杜」です。私
はこの「大杜」を「たいしゃ」とばかり思ってい
ました。出雲大社の「たいしゃ」です。しかし、読
み方は「おおと」。ここにどんな秘密があるか、調
べてみました。

「大杜」の名は、明治時代に出現します。「森村」
と「草場村」が合併して「大杜村」になったとあ
ります。「杜」と言う字は、「もり」とも読みます。
仙台市は「杜の都」と呼ぶのと同じでしょう。
つまり「杜」は森村の「森」から来ているよう
です。合併によって、森村が大きくなって「大杜」
になったとも考えられます。しかし、どうして
「おおと」と呼ぶのでしょうか。残念ながら謎の
ままでした。ご存じの方はご一報ください。

れんさい
連載③

あるさと 宮ノ陣

【五郎丸の今昔】

今年ラグビーワールドカップが日本で開催
されます。そのラグビーで数年前に大きな話題
となったのは、五郎丸歩選手です。独特のパフ
オーマンスで話題をさらいました。それに伴い、
「五郎丸駅」にも多くのファンが殺到しました。
九州には「〇郎丸」という地名が多く存在
します。北野町には十郎丸があります。

「五郎丸」という地名は今から800年ほど前の
鎌倉時代に見られます。「丸」は開墾した土地を
表すそうです。五郎という人が、五番目に開墾
された土地ということで「五郎丸」という地名
になったようです。古くからこの地は、田んぼ
などで栄えていたようですね。

れんさい
連載④

あるさと 宮ノ陣

【八丁島は島だった？】

古代において、
右の図のように
「縄文海進」とい
って、海抜が高
く、海が陸地に
浸食する時代が
ありました。そ
の後、水が引き始
めました。する



とそこに土砂がたまり、「島」を形成するようになりました。
大きな川の近くにはそのような場所がたくさんでき、村が
つくられ「島」と呼ばれました。久留米近辺では、「金島」
「床島」「勿体島」「荘島」「城島」等があります。「八丁島」も
その一つです。この島の周囲が8丁(約9.6km)あったの
で、こう呼ばれるようになったと言われます。地名は、そ
の土地の成り立ちも物語っていますね。

れんさい
連載④

あるさと 宮ノ陣

【若松】

明治時代、古賀村、恋の段村が合併したときに
できた地名です。「めでたい名前」として「若松」
と名付けられたそうです。若松とは、幸福、繁栄
などを意味し、仏典ではめでたいこと、幸先の良
いことをあらわす言葉です。当時の人々の願いが
伝わってきますね。



れんさい
連載⑤
みやせ
【宮瀬】

あるさと 宮ノ陣



この地名も明治時代にでき
ました。荒瀬村（現2～3
丁目）と宮地村（現1・4
・5丁目）、国分寺村が合併
し、「荒」と「宮」を併せて
できた地名です。この2つの
地には「渡し」がありました。

筑後川放水路は当時はここが筑後川本流で、砂がたまって歩いて渡れる深さだったため、「荒瀬の歩渡」とも呼ばれていたそうです。一方、宮ノ陣郵便局の正面には、「宮地ノ渡」があり、参勤交代にも使われる重要な場所だったようです。大きな橋がない時代、筑後川を渡る場所は交通の要衝でもありました。

れんさい
連載⑥

あるさと 宮ノ陣

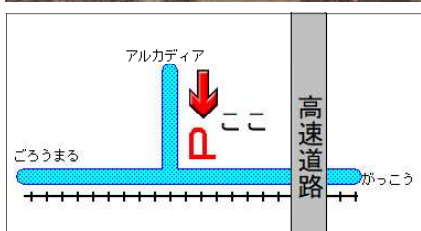
【五万騎塚】～宮ノ陣には史跡がいっぱい編～

今回からは宮ノ陣に
ある史跡についてお伝
えます。

今から660年前、南北
朝時代の1359年、「大
原合戦」（筑後川の戦



い)がありました。九
州では最大級の合戦
とされ、近畿や関東で
の戦いに関する記述
が中心の軍記物「太平



記」でも、異例の扱いで詳しく記されています。
少式頼尚率いる北朝方と、懐良親王・菊池武光らの南
朝方が筑後川北岸から小郡市大保原地区にかけての一
帯で激突。「五万人」が亡くなったと伝えられます。多数
の死者が放置されている様子を見た高良山の高僧があわ
れみ、戦死者を集め、塚を築き吊りました（実際の戦死者
は北朝約3600人、優勢のまま戦いを終えた南朝方でも
約1800人だと考えられています）。1972年、九州縦貫
道路建設のため、地域の方々のお力で、現在地に移転さ
れました。

連載⑦ あるさと 宮ノ陣

【宮ノ陣神社と将軍梅】

宮ノ陣には、前回お伝えした「大原合戦」(筑後川の戦い)にゆかりのあるものがあります。宮ノ陣神社は懐良親王が祭られています。この地を本陣としていた親王が、弁当を食べたときに捨てた梅干しの種が育ち将軍梅になったという言い伝えもあります。(実際には梅の木を植えたと記されています。)

校長室には、創立100周年を記念して稗田孝之氏(本校卒業生、日本切り絵協会会員)からいただいた将軍梅の絵があります(右図)。いつもピンクの梅の花を咲かせています。



連載⑧ あるさと 宮ノ陣

【杜ノ渡】

ここも、大原合戦に関わりがあります。懐良親王・菊池武光らの南朝方の一部が渡った渡しとして知られています。もともとは「森ノ渡」でしたが、読み方が同じなので、「杜」となったということです。古代においてはここを渡っていましたが、上流の神代の渡を使うようになり、江戸時代前には廃止されたようです。高速道路建設に伴い移動しているようですが、ここあたりにあったことは間違いありません(説明板と記念碑があります)。橋がない時代に「渡」は交通の要所として重要だったので、



れんさい
連載⑨

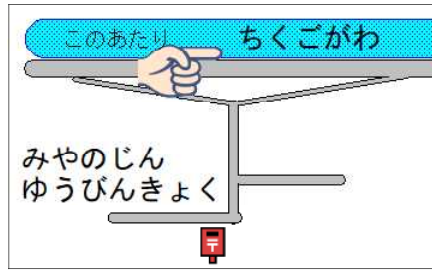
あるさと 宮ノ陣

【宮地の渡】

大社の渡がなくなった後、戦国時代の終わり頃に「宮地の渡」

ができました。江戸時代になると、ここが参勤交代の道となり、重要な渡しとなりました。そのための役人や休憩するための施設など

が作られました。また、久留米の庶民の交通にも使われるようになり、発展しました。今は、石段の跡が一部見られます。



れんさい
連載⑩

あるさと 宮ノ陣

【参勤交代の道】

宮ノ陣は、江戸時代になり、交通の要衝として、反映します。それは久留米の有馬の殿様が参勤交代の街道として宮ノ陣を利用するようになったからです。

参勤交代の道となると、殿様だけでなく、商人などが多く通過することになり、大いに繁栄したようです。

その経路は、宮地渡から五郎丸→古賀茶屋→光行土手→松崎→冷水峠です。それ以前は、府中（御井町の高良大社の入り口あたり）を通り、神代の渡しを渡り、松崎へ。または、神代の渡しから金島・本郷を通り秋月から八丁峠という道だったそうです。

ちなみに、冷水峠は八丁峠が大変厳しい道のりだったため江戸時代に開通したそうです。現在の道にも、古代の道の名残を感じられますね。

れんさい
連載⑪

あるさと 宮ノ陣

【光行の一里塚】

八丁島はつちようじまの光行みつゆき（クリーンセンターけんせつの出口横でぐちよこ）に一里塚いちりづかの碑ひが立たっています。1里りはおよそ4kmあらわを表あらわす昔むかしの単位たんい。一里塚いちりづかとは主要しゆうな道みちに1里りごとに目印めじるしとなる塚つかや松まつなどの木きを植うえたものです。光行みつゆきの道路どうろやクリーンセンターけんせつの建設けんせつのため本当ほんとうの場所ばしょからは少しすこずれていいるそうすです。



ちなみに、久留米くるめの起点きてんとなるのは、札ふだの辻つじ。市役所横しやくしよよこのスシロしーにその碑ひがあります。そこから

街道かいどうが各方向かくほうめんに伸のびています。光行みつゆきの一里塚いちりづかは札ふだの辻つじからおよそ8kmあらわです。中心地ちゆうしんちから2つ目めの一里塚いちりづかなのでしょう。この道路どうろが重要じゆうような道みちであることあらわを表あらわしています。

れんさい
連載⑫

あるさと 宮ノ陣

【御供納め】

毎年まいとし、12月がつに八丁島はつちようじまで行おこなわれている行事ぎやうじです。今年ことしは、先週せんしゆうの14・15日にちに行おこなわれました。天神堀てんじんぼりに7年ねんに1回かいまわってくる座ざの子こどもが船ふねに乗りの、3升しゆう3合ごうの玄米げんまいを納おさめ、無む病びよう息災そくさいを祈いのります。今年ことしは3歳さいの子こでした。この



行事ぎやうじの由来ゆらいは、「おかねの恩返しおんがえ」「菊姫物語きくひめものがたり」という二つの伝説でんせつに由来ゆらいする「人身御供ひとみごくう」と「収穫祭しゆうかくさい」が一緒いっしょになったものといわれています。久留米市くるめしの無む形文化財けいぶんかざいとなっており、当日とうじつは、多くおほの人ひとで賑にぎわいました。300年ねんほど前まえから行おこなわれていたという記録きらくもあります。地域ちいきの行事ぎやうじが続つづいているということあらわはすごいすですね。

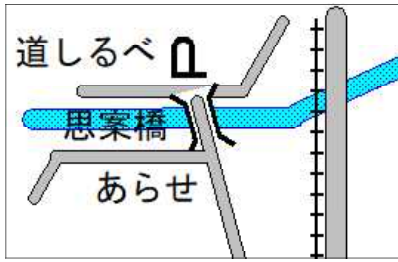
後日ごじつ、4年生ねんせいは、地域ちいきの方かたを招まねいて、具体的ぐたいてきに「御供納ごくおさめ」について学まなびました。伝統でんとうは学校がっこうを通とおしても引き継つがれるといいですね。

れんさい
連載⑬

あるさと 宮ノ陣

【思案橋道標】

これまで街道について述べてきました。最後は、思案橋の道標です。「思案」とは、いろいろ考えることです。昔の人が、渡ろうか渡るまいか、行こうか行くまいかと思案したという橋で、各地にその名が残っています。宮ノ陣の場合は、地図のように、小郡の横隈を通過して博多へ出る道と、肥前（佐賀）の方へ行く分かれ道に立っています。天保14年(1843)に建てられました。そんな場所を通ると、昔の人の気持ちが伝わってくるようです。



れんさい
連載⑭

あるさと 宮ノ陣

【国分寺】

6年生社会科の教科書には「奈良時代に、全国各地に国分寺が建てられた」という記述があります。久留米にも、その国分寺が建てられました。「西国分」

「東国分」というのは、そこに由来があります。現在の国分町の日吉神社がある場所に建てられたことがわかっています。では、なぜ宮ノ陣に国分寺があるのでしょうか。武士の時代になり、国分寺は荒廃し、足利尊氏により現在の地に移されたそ



うです。その後、江戸時代になり筑後の地を治めていた田中吉政が再興しました。そんな歴史を持つこの寺には地蔵来迎板碑という県指定の文化財もあります。伝統あるお寺といえるでしょう。ちなみに、ここのご住職は「チョーク絵」のサトルさんとしても活躍されています。

れんさい さいしゅうかい
連載⑮最終回

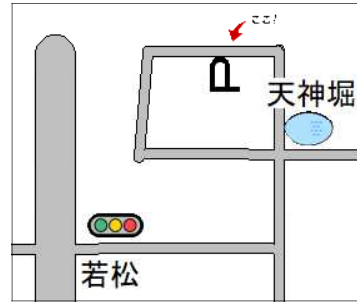
ふるさと 宮ノ陣

【古賀城跡】

みや じん しろ
宮ノ陣にお城があったことをご存じでしょうか。はつちよう
しま こが じよう しろう
島には「古賀城」があったという碑が立っています。城
あと み いわはしし きよじよう
の跡は見られませんが、岩橋氏の居城だったことが記さ
れています。

わたし しろ くもとじよう いしがき てんしゆかく
私たちは「城」というと熊本城のような石垣や天守閣
も もの むろまち せんごく じだい じぶん
を持つ物をイメージしますが、室町から戦国時代は、自分

りようち けいざいてき うんえい せいじてき しはい
の領地を経済的に運営し政治的にも支配していくために、平地を一望できる平山城
つく こが じよう しろう ひと
が作られました。古賀城もそんな城の一つかもしれません。ちなみに、「古賀」とい
うのは、『空閑』（「こが」と読みます）から変わったもので、中世に開発された土地
い み も
という意味を持ちます。



へい ち いちぼう ひらやましろ
平地を一望できる平山城